

## 研究主題 「肢体不自由養護学校中学部における進路指導の展開 ―地域生活マップ作成を通じて行う自己理解能力の育成―

東京都教職員研修センター研修部専門教育向上課  
 東京都立多摩養護学校 教諭 山崎英一

### I 研究のねらい

進路指導には、高等部卒業後の進学・就職等の進路選択に関する指導だけでなく、在学中からの生き方指導という両面がある。

障害者施策との関係では、支援費制度の開始及び障害者自立支援法施行等の福祉制度の変革の中で、障害者がより自分らしく地域生活に参加をしていくために、自ら考えて、自ら意志を表明していくことがこれまで以上に求められてきている。また、肢体不自由養護学校在籍の児童・生徒にとって、地域生活をより充実させていくためには、身体的ケアを受けられる活動の場や移動手段の確保といった、家庭、学校、関係各機関との連携が課題としてある。そうした課題に対して、本人が幼児期から積極的、主体的な地域社会とのかかわりを広くもつことが解決方策の一つとして考えられる。

そこで、個別の教育支援計画の基、キャリア教育における自己理解能力の育成を目標とした学習計画の構築を考えた。

### II 研究の内容と方法

#### 1 研究仮説

中学部における進路学習として、国際生活機能分類（以下 I C F）を活用した「地域生活マップ」作成に取り組むことで、自分の地域生活の特徴に対する自己理解を図り、主体的に地域生活の現状について考えることができるようになる。

#### 2 基礎研究

##### (1) I C F の活用

I C F カテゴリーを参考に、具体的に整理、分類した項目を使い「地域生活マップ」を作った。支援費制度における I C F の活用法は、個人の能力や行動といった個人因子に視点をおいているが、本研究では学校教育の中で取り組む自己理解能力の育成という観点で具体化した。対人関係については、生徒自身がイメージしやすい人を列挙し、身近な人とのかかわりから、その特徴を把握することができるように「地域生活マップ(対人関係マップ)」としてまとめた。地域活動への参加については、学齢期における主要な生活場面を「学ぶ」「働く」「楽しむ」「暮らす」の4分野に分類し、現在と将来において参加が想定されるものを中心に、具体的な活動場所名を挙げて「地域生活マップ(地域活動に関するマップ)」としてまとめた。

I C F カテゴリー 第1部：生活機能と障害(b)活動と参加		「地域生活マップ」
d7 対人関係 「特別な対人関係」「公的な関係」「非公式な社会的関係」「家族関係」「親密な関係」	→	(対人関係マップ) ①保護者 ②兄弟姉妹 ③親戚 ④友人 ⑤知人 ⑥仲間・同僚 ⑦介助ボランティア ⑧支援機関職員 ⑨教師・医師
d8 主要な生活領域 「教育」「仕事と雇用」「経済生活」 d9 コミュニティライフ・社会生活・市民生活 「コミュニティライフ」「レクリエーションとレジャー」「宗教とスピリチュアリティ」「人権」「政治活動と市民権」	→	(地域活動に関するマップ) 学ぶ(図書館、塾、上級学校等) 働く(会社、障害者職業能力開発校、ハローワーク等) 楽しむ(映画館、スポーツ施設等) 暮らす(理容店・美容院、病院、地域生活支援センター等)

## (2) 自己理解能力について

キャリア教育において育成すべき4能力の一つとして挙げられている、人間関係形成能力のうち自己理解能力の育成に焦点化した。自分の居住地での参加や人とのかかわりについて、他の生徒と共に比較、分析することで、自己の地域生活に関する特徴を理解し、その上で課題について考えるようになる。

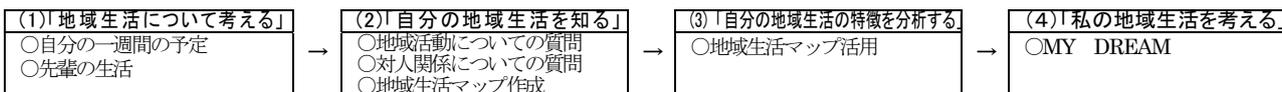
## 3 開発研究

生徒の自己理解を図るために、居住地における地域活動への参加の度合いと、その具体的な活動場面において、どのような人とかかわりがあるのかについて確認する質問表及びそれを視覚化した「地域生活マップ(対人関係マップ)」と「地域生活マップ(地域活動に関するマップ)」を開発した。また、この教材を利用した学習指導計画をまとめた。

(1)「地域活動に関する質問(実態について)(希望・関心について)【補助資料②】
・生徒の地域活動への参加実態と、現在及び将来における希望・関心を抽出することを目的とする。 ・「学ぶ」「働く」「楽しむ」「暮らす」の4分野について、具体的な活動場面として考えられる、図書館、ハローワーク、映画館、病院等の場所を提示した。実態・希望・関心ともに質問に対して生徒自身が回答し、活用度合いや希望の程度を、3段階に設定し、それを結果として集計した。
(2)「対人関係に関する質問【補助資料③】
・生徒の地域活動における参加場面での人とかかわりの度合いを明らかにし、その特徴から将来に向けた課題を見付けることを目的とする。 ・(1)「地域活動に関する質問」における具体的な活動場면을想定し、そこで行動を共にしている人やしたいと思っている人がいるかどうかをゲスフーテストの手法を使い、質問する。回答内容として、生徒がイメージしやすい身近な存在を例として挙げ、選択させる。その回答について、どの程度の割合で多くの人とかかわっているのか、又は固定された人とかかわりがあるのかを特徴としてとらえさせる。
(3)「地域活動に関するマップ【補助資料①】
・地域活動に対する希望・関心が、実態と比較して「学ぶ」「働く」「楽しむ」「暮らす」の4分野の中で、どのような分布を示すか、特徴を明示する。 ・(1)で提示した項目と数字をレーダーチャートグラフ形式に当てはめる。地域活動に関する質問の実態について出た結果と、希望・関心で出た結果を重ねて表示することで、4分野のどこに希望が集まっているのか、それはなぜか等の特徴が見える。
(4)「対人関係マップ【補助資料②】
・活動場面における人とかかわり具合を、本人を中心と想定したマップに示すことで対人関係の特徴を明らかにする。 ・(2)の中で回答した人とかかわり具合について、レーダーチャートグラフ形式に当てはめた。地域において多くの人とかかわりをもっているときは外に広がった分布を示し、家族など身近な人とかかわりが多いときは中心に寄った広がりを示す。

## 4 指導計画

本研究において、小単元「地域生活について考える」「自分の地域生活を知る」「自分の地域生活の特徴を分析する」「私の地域生活を考える」で構成した。地域生活に関する自己分析を通じて、参加する活動や人とかかわりについて意識し、今後の地域とのつながりを発展的に考えるようになる。またその結果、具体的な課題を見付け、解決に結び付けようとする積極性を身に付けることができる考えた。



## Ⅲ 研究の結果と考察

### 1 検証授業の結果(生徒Aの場合)

#### (1) 地域活動に関する実態を学ぶ

生徒からの結果	様子と考察
<p>「地域生活マップ(地域活動に関するマップ) 実態編」</p>	<p>・【補助資料②】Ⅲ「地域活動に関する質問(実態について)」に記載された活動場所に対して、①～③の利用状況に当てはめて回答した。「塾など」「映画館」「理容店・美容院」等の活用している場所の分野については、参加時の様子等生徒が積極的に会話をする場面が見られた。しかし、「会社」等が入る「働く」分野については「ハローワーク」「障害者職業センター」などの名称を知らないため、どのような場所なのかを説明してほしいと求めている。</p> <p>・あらためて自分の地域活動への参加に関する学習を通じて、定期的な活動への参加が少ないことに気付いた。各分野の項目で活動の名称等で知らないものも多かった。特に「働く」「暮らす」分野について、当初既卒者が通っている福祉作業所や障害者職業センター、ショートステイ等の名称も入れていたが、自分が参加していないことが多い分野なので線の広がりが小さかった。</p>

## (2) 地域活動に関する希望・関心から自己理解を進める

生徒からの結果	様子と考察
<p>「地域生活マップ (地域活動に関するマップ) 希望・関心編」</p>	<p>・【補助資料②】Ⅲ「地域活動に関する質問 (希望・関心について)」 前述 (実態について) で出てきた各場所及びそこでの活動内容への希望・関心の強さを①～③の数値で回答した。実態で①と回答した (中心寄り) の活動について強く希望することはなかった。「働く」分野など将来において重要な分野への関心を引き出そうと、「大きく生活の中で変えた方がよいことがあるか」という問いにも、「ない」と回答していた。</p> <p>・4分野のうち「学ぶ」「楽しむ」分野において外への広がりが大きくなっていった。これは現状の活動をさらに充実させていくことが現在の希望であり、「働く」「暮らす」など自立生活において求められる活動には、知らないということと同時に、自力でできるという自負があり、今は必要性を感じていないと考えられる。</p>

## (3) 人とのかかわりについて、特徴を学ぶ

生徒からの結果	様子と考察
<p>「地域生活マップ (対人関係マップ)」</p>	<p>・【補助資料③】Ⅴ「対人関係に関する質問」で、「います」との回答のうち、どのような人とのかかわりかを問い、①～⑨の番号で答えた。それを質問場面数 (本例では11例) 中、何回出てきたか、割合を出し、半数以上ならば3、半数未満ならば2、0回ならば1として、数値化した。</p> <p>・家庭の内外において独力のできることが多いことから、広がりとしては小さくなった。また、その形から身近な、よく話す人とのかかわりが中心であるといった気付きがあった。中学部段階において、家庭と学校以外での活動場面が限定されていること、移動等に関して本生徒は介助を必要としていないことが線の広がりや形に表れた。地域活動に関する調査と同様、自力でできることへの自信がこのマップから考えられる。</p>

## (4) 地域生活の充実を考える

生徒からの結果				様子と考察
MY DREAM				<p>・授業の最後に、はっきりしてきた自分の希望・関心のある活動について、具体的に「活動名」「参加方法」「必要なこと」を書き出させた。今回はすでに取り組んでいる内容以外は出てこなかったため、実現のために「必要なこと」は記入がなかった。しかし、今実現していることでも、もっと気軽に、もっと多く参加したいと話してきて、本単元の初めには見られなかった、これからの対する積極性を感じさせた。</p> <p>・中学生という年齢、自宅の近所ならば自力で移動ができるという個人能力からくる結果が出た。「働く」分野での記入がなかったこと、すでに取り組んでいる内容をより充実させるために「必要なこと」といった記述がなかったことは現状に対する自信の表れであると考えられる。しかし、もっと気軽に、もっと多く参加したい、という発言からうかがえる地域生活の充実という希望実現に向けた具体的な考えをもつまでにはいっていないということが分かる。</p>
希望する活動分野	活動名	参加方法	必要なこと	
学ぶ	高校で友達と話したい。	バスや電車で行く。	なし	
働く	なし	なし	なし	
楽しむ	映画館に行って、友達や好きな人と一緒に映画を観たい。	電車で行く。	なし	
暮らす	近所の理髪店や美容院に行って、スキンヘッド以外の髪型をやってみたい。	一人で行く。	なし	

## 2 検証授業の考察

### (1) 授業の様子

「地域生活マップ (対人関係マップ)」と「地域生活マップ (地域活動に関するマップ) 実態編、希望・関心編」などの具体的なワークシートを取り入れた授業を行った。中学部の学習計画の中で、この時期に具体的な進路学習に取り組み始める予定だったので、対象生徒にとっては、初めて客観的に地域生活について考える授業になったので、始めた頃は緊張をしている様子も見られ、教師からの発問に対して、明確に意志を表すことが少なかった。しかし、徐々に自分たちの居住地にある活動や身近な人との関係について問う内容で授業が進んでいくと、自分のこと以外にも「先輩は・・・と話していた。」とか「兄は家で・・・して過ごしている。」といった派生的な内容を話してくるようになった。その中から、家庭での生活の様子について情報を

蓄積することもでき、今後の授業への参考になる場面もあった。最後の授業において「MY DREAM」として、今希望する活動について記述させたところ、その内容について「バスは乗ったことがないけど、通学に使ってみたい。」「茶髪は嫌だけど、いろいろな髪型を試してみたい。」などと積極的に話していた。すでに実行している内容についての記述が多かったが、より気軽に、より数多く行きたいという、さらに充実させていきたいという強い希望を授業の中で訴えることがあった。

## (2) 考察

肢体不自由養護学校中学部で取り組む進路学習として、様々なワークシートを使った学習形態は、生徒にとって見通しをもちながら取り組むことができるものであった。本単元の初めの頃の講話中心の時と、展開時のワークシートを使った学習活動の時の、生徒からの質問の量が明らかに違い、自分の地域生活のことを積極的に考えようとする様子が見られた。

## 3 研究の全体考察

### (1) 自己理解能力の育成

本研究において、地域活動への参加に関する自己分析を進め、地域生活について自己理解を図るようにしてきた。これまで学校中心に生活をしてきた生徒にとって、自己の一週間の予定表を書き出したり、「地域生活マップ」を作成したりして地域生活を見直すことは、興味深い取り組みであったようだ。地域に関する情報活用を通じて、学校以外の地域活動について具体的に考えるようになり、今後の地域生活について考えるきっかけとなった。

### (2) 地域生活マップ

ICFの活用方法として、生徒自身取り組みやすく、かつ本単元以降の進路学習につなげやすい形として「地域生活マップ」作成を行った。視覚的に地域活動への参加の実態について、分野ごとの分布や自分がどの分野に関心・希望があるのか、また、人とのかかわりがどのような広がりをもっているのかなどの特徴をつかむことができた。そこから、主体的に生徒一人一人の地域生活の特徴と課題を明らかにすることができ、進路選択といった将来の夢のことを考えていくきっかけとなった。

## IV 今後の課題

### 1 学校全体の進路指導計画との関係

学校全体の進路指導計画に「地域生活マップ」を活用した授業計画を位置付けた上で、発達段階に応じて取り組むことが必要である。小学部では同世代の友達との関係づくりから、中学部ではより広範囲の人とのかかわりから地域生活を考え、高等部で地域社会の中での生活を具体化させることができるように、継続性をもたせた進路指導計画づくりを主導していく。

### 2 個人に合わせた学習

対象児童・生徒の個別の教育支援計画、個別指導計画との関連付けをより詳細に行い、「地域生活マップ」の項目を生徒個人に合わせたものにすることが必要である。そのために、地域活動への参加に関する情報について、保護者と全教員が情報を共有した上で、発達段階に応じた学習計画の作成と関連する教材の開発ができるように校内研修を主導していく。

## I 自己理解能力を育成する指導の手順

本研究において、生徒の自己理解能力育成のために下記指導計画に則り、学習教材等を開発した。

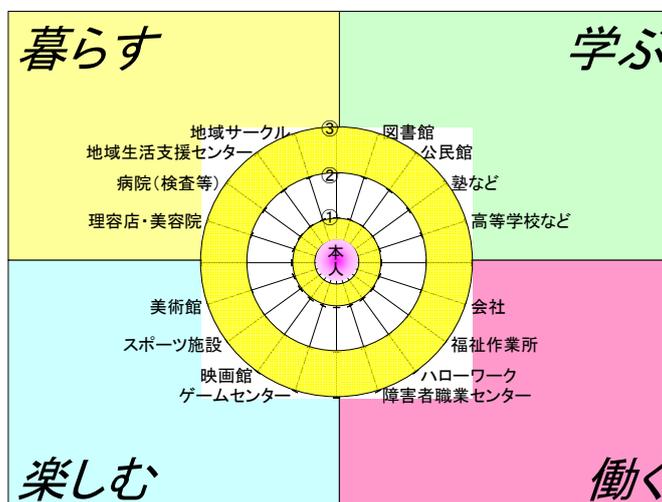
指導計画	具体的な学習活動	望ましい生徒の様子	指導、教材の工夫
① 地域生活について考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の一週間の予定表を書き出す。</li> <li>学校卒業後の地域生活を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>客観的に自己を振り返る。</li> <li>これからの地域生活および将来に興味を抱く。</li> </ul>	使用教材：週間予定表、養護学校卒業生の一日を追った視覚教材 ・時間の使い方を大まかな枠でとらえる
② 自分の地域生活を知る	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域活動に関する質問に答える。</li> <li>地域活動への参加における人とのかわりについて質問に答える。</li> <li>上記質問内容から地域生活マップを作成し、見合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域活動に参加することに意欲的であろうとする。</li> <li>自分の力を信じて、独力でやり遂げようとする。</li> </ul>	使用教材：補助資料Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ ・場面を想像しやすい内容 ・同年齢の友達や他学年との比較がしやすい内容
③ 地域生活の特徴を分析する	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域生活マップから自己の地域生活における特徴を分析する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動への参加について、より充実させるようとする。</li> </ul>	使用教材：穴埋め形式のワークシート ・課題意識をもたせる
④ 私の地域生活を考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己分析した地域生活の特徴からどのような課題があるのか、考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題を解決し、自分らしい地域生活を考えようとする。</li> </ul>	使用教材：穴埋め形式のワークシート ・希望した活動分野で具体的に記入させる ・現状維持ことどまらせない内容

## II 「地域生活マップ（地域活動に関するマップ）実態編、希望・関心編」

項目設定：後述するⅢ「地域活動に関する質問」において、学区域や児童・生徒の居住地における現在の参加状況を考慮に入れた活動（場所）名を設定する。また、同じ設定活動（場所）名でこれからの希望・関心の程度を質問する。両質問に回答した活動（場所）名を、レーダーチャートグラフに項目設定する。表示設定は表計算ソフトの指定された箇所に記入すると、自動で表示される。

活用法：後述するⅢ「地域活動に関する質問（実態、希望・関心）」に対する①～③の回答を、「地域生活マップ（地域活動に関するマップ）」上の各項目、①～③の数値交点上に印を付け、それを線で結ぶ。そして、線で囲まれた領域の特徴から、生徒が地域活動の現状について認識を深めるとともに、希望・関心と併せて見ることで、4分野のうちのどの分野への関心が強いのか、そこで考えられる課題が何かを自己分析することができる。そして、将来的な活動分野への参加について積極的に考えるきっかけとなる。

（実態、希望・関心）



補助資料①

### Ⅲ 地域活動に関する質問

項目設定：生徒の発達段階、地域の実態に応じて具体的にイメージしやすいものを中心に、4分野ごと4個程度、選定する。また、現在活用しているものだけを列挙するのではなく、「働く」分野のように将来活用してほしいと教師側が考えているものについても設定することで、他学年の生徒と比較し、指導を進めることができるようにした。

活用法：居住地での地域活動を念頭に「学ぶ」「働く」「楽しむ」「暮らす」の4分野に分類した項目について、現状での参加の実態や今後に向けた希望・関心の度合いを質問し、該当する欄の中に○を付けさせる。（実態について）と（希望・関心について）は同じ項目を使用する。

（実態について）

		③よく利用する 定期的に利用する	②時々利用する		①利用していない
			頻 有 無	頻 有 無	
学ぶ	図書館				
	公民館				
	塾など				
	高等学校など				
働く	会社				
	福祉作業所				
	ハローワーク				
	障害者職業センター				
楽しむ	ゲームセンター				
	映画館				
	スポーツ施設				
	美術館				
暮らす	理容店・美容院				
	病院（検査等）				
	地域生活支援センター				
	地域サークル				

（希望・関心について）

		③これからも 利用したい	②様子を見て から利用したい		①利用しない
			頻 有 無	頻 有 無	
学ぶ	図書館				
	公民館				
	塾など				
	高等学校など				
働く	会社				
	福祉作業所				
	ハローワーク				
	障害者職業センター				
楽しむ	ゲームセンター				
	映画館				
	スポーツ施設				
	美術館				
暮らす	理容店・美容院				
	病院（検査等）				
	地域生活支援センター				
	地域サークル				

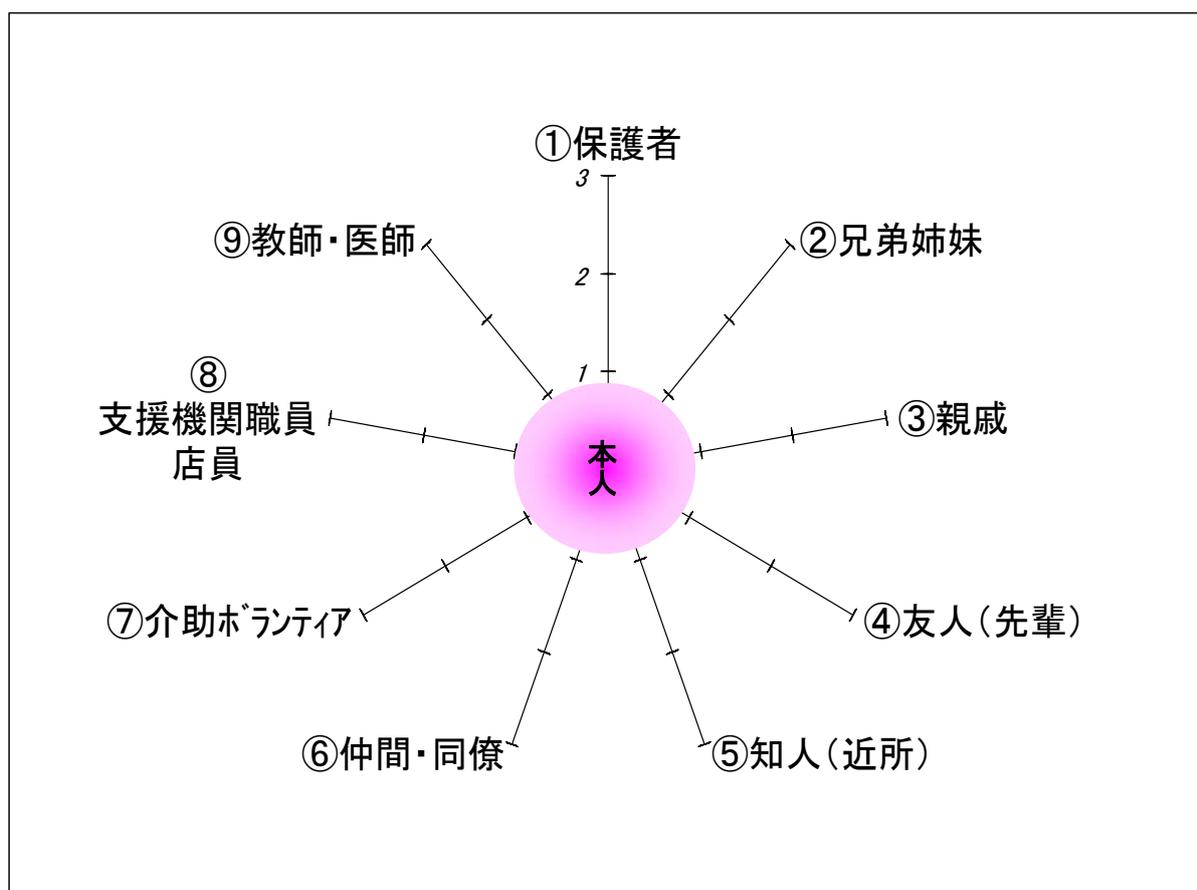
他学年の項目例

	小学部	高等部
学ぶ	幼稚園・保育所、リトミック教室	大学、専門学校
働く	係仕事、（家庭での）手伝い	就労支援センター、障害者職業センター
楽しむ	公園、遊園地	カラオケ
暮らす	お店、郵便局	市役所の福祉課、障害者年金

#### IV 「地域生活マップ（対人関係マップ）」

項目設定：後述するV「対人関係に関する質問」から、普段の生活場面の中で、どのような人とかかわりがあるのかをグラフ化し、対人関係の特徴を表す。活動場面においてかかわりのある人が「います」とした回答数（報告書③：本例では11場面中8場面）中、①～⑨の人が半数を占めたら3、それ以下なら2、0ならば1として数値化し、マップ上の①～⑨の各人を表す線上1～3の数値交点上に印を付ける。

活用法：生徒個人の生活環境によって線で結ばれた領域は様々な形を示すが、「地域生活マップ（地域活動に関するマップ）」と併用し、具体的な活動場面における対人関係の特徴がどこにあるか、その課題がどのようなものかを考えさせる。



## V 対人関係に関する質問

項目設定：生徒の発達段階、地域の実態に応じて具体的にイメージしやすい場面を設定する。また、かかわる人①～⑨は、生徒の身近な存在からICFに準拠して設定した。

活用法：前述Ⅲ「地域活動に関する質問」の4分野における具体的な活動場面を想定し、それに関して行動を共にしている人や、したいと思っている人物がいるかどうかをゲスフーテストの手法を用いて質問する。

あなたがこれまでの地域生活において、どのような人とかがかわってきているのかを書き出します。そうすることで、あなたの対人関係について、分かることがあります。 <span style="float: right;">氏名 _____</span>	
①保護者 ②兄弟姉妹 ③親戚 ④友人(先輩) ⑤知人(近所) ⑥仲間・同僚(参加団体内) ⑦介助ボランティア ⑧支援機関職員 ⑨教師・医師	
<b>学ぶ</b>	
1 学校の中で頼りにしている人はいますか。また、それはどんな人ですか。	います(番号 _____)、いません
2 進学について相談している人はいますか。また、それはどんな人ですか。	います(番号 _____)、いません
3 家庭外の施設サービスへ一緒に行っている人がいますか。また、それはどんな人ですか。	います(番号 _____)、いません
<b>働く</b>	
1 会社で仕事に就くことを考えるとき、理想の人がいますかまた、それはどんな人ですか。	います(番号 _____)、いません
2 働いている障害者を知っていますか。また、それはどんな人ですか。	います(番号 _____)、いません
3 あなたが働こうというときに相談している人がいますか。また、それはどんな人ですか。	います(番号 _____)、いません
<b>楽しむ</b>	
1 映画を観ていく時に一緒に行っている人はいますか。また、それはどんな人ですか。	います(番号 _____)、いません
2 スポーツ施設の利用について、介助を頼んでいる人はいますか。また、それはどんな人ですか。	います(番号 _____)、いません
<b>暮らす</b>	
1 自宅で家族と暮らすときに頼りにしている人はいますか。また、それはどんな人ですか。	います(番号 _____)、いません
2 病気や障害について相談している人はいますか。また、それはどんな人ですか。	います(番号 _____)、いません
3 生活の様々な相談をするときに頼りにしている人はいますか。また、それはどんな人ですか。	います(番号 _____)、いません

他学年の項目例

	小学部	高等部
学ぶ	よく一緒に遊ぶ友達、勉強を教えてくれる人	大学進学の相談者、地域情報の提供者
働く	家の手伝いを一緒にしてくれる人	就労に向けた支援者、実習先の理解ある先輩
楽しむ	遊園地へ一緒に行きたい人	一緒にカラオケに行きたい人
暮らす	保護者のほかかたに体のことを見てくれる人	買い物を手伝ってくれる人、一緒に料理したい人